

2011/04/26

分析分科会平成23年度第1回運営委員会 議事メモ(案)

2011年4月19日(火) 13時30分～16時30分

東京八重洲ホール 4F

出席者(順不同・敬称略):

委員長 衣笠(産総研)

委員 永岡(熊本県)、坂尾(神奈川)、三神(山梨県)、村岡(岡山県)、大橋(名古屋市)

門家(愛媛)、工藤(秋田)

産総研側委員・事務局 福本、一石、松本

欠席者: 早川(山梨)、杉内(福島)、南(京都)、隅田(高知県)、前田(産総研)、藤本(産総研)

衣笠委員長の挨拶の後で、事務局(一石)から配布資料目次について説明があった。

(1) [配布資料2ページ目]平成23年度分析分科会運営委員名簿

全出席者による自己紹介の後で、衣笠委員長による記載情報の確認のお願いがあった。

- ・衣笠の名前が二つ掲載されているので修正。
- ・兵庫県立工業技術センターが分析担当部署がないために辞退され、愛媛県がH24・25会長機関を引き受けてくれた。
- ・来年度福島県で開催する事はペンディング状態だが実施する方向である。
- ・計測標準研究部門副部門長(化学系)の交代により、千葉から藤本に変更になった。

(2) [配布資料3ページ目]分析分科会平成23年度年間日程(予定)

衣笠委員長からスケジュールの説明がなされた。また、スケジュールの追加希望の確認があったが、各委員からの希望はなかった。

- ・昨年度のスケジュールと時期は一緒。しかし、資料印刷に関するスケジュールが変更になる。
- ・委員長より、来年度スケジュールは原発等の状況によりペンディング。今年夏ごろに状況を見て決定。万が一、福島県で開催不可の場合は東京都に打診検討。その場合の次々期担当ブロックについては要検討。

(3) [配布資料4ページ目]平成21年度決算及び22年度経費予算

事務局(一石)から以下の説明があった。

- ・今年度は昨年度の約半分の予算。産学官からの予算は未定。部門からの予算は昨年の約半分。この予算削減が今年度だけで済むのか心配。
- ・資料印刷製本代を削減。pdf ファイルを Web に掲載し、参加者に各自必要に応じてプリントアウト

2011/04/26

をお願いする。プロジェクター・マイク、レーザーポインタは熊本県から貸与、産総研からプロジェクタ2台持ち込み。看板なし(無料であればお願いする)。

- ・見学バス代は総会予算の方で計上予定だが、ペンディング。産学官からの予算次第。
- ・産総研が資料代を参加者から徴収するのは、会計処理の複雑さから困難。産総研以外の機関が別途徴収する方法もあるが、公設試でも同様の事情がある。

(3)[配布資料 5-a~5-c ページ] 資料1 平成22年度分析分科会年会開催資料(知的基盤部会総会と併催)

開催県の永岡委員から説明があった。

(4)[配布資料6-a,b ページ]年会プログラム(案)

衣笠委員長より説明があった。

- ・分析技術討論会は今年も6件募集。
- ・材料評価はプラスチック中の金属分析の予定。埼玉県鈴木氏の協力をお願いする予定。
- ・二つの検討会を1つの部屋で行う可能性高い。
- ・交流会会場:「ローズルーム」→「城彩」

(5)[配布資料 7 ページ]総会・年会開催案内(案)

衣笠委員長より説明があった。

- ・例年通りの内容
- ・「同仁化学」→「同仁化学研究所」に修正

(6)[配布資料 8 ページ]共同分析試料の概要、

および、

別紙「平成23年度共同分析実験試料調製(発注番号 AA10064848)報告書 平成23年2月 株式会社 環境総合テクノス」

永岡委員から説明があった。

- ・均質性は良好。
- ・8ページの「105℃」→「110℃」。調整した会社を追記。「ケイ酸塩」→「けい酸塩」。永岡氏の電話番号(ダイレクト)修正。
- ・昨年は単位の変換をしていたが、今年はしないのか?→質量分率(%)に統一。
- ・「分析対象成分」を別セクションにして、明記する。「1. 目的」の後にする。

- ・マグネシウムは環境テクノス所有の蛍光X線で検出できないため均質性のデータは現在ないが、他成分の均質性が十分に良好であるので、マグネシウムも良好であると推測される。技能試験ではなくあくまで共同研究であるので必須ではないのではないかと。

- ・「有効桁数4桁」で報告してもらうように文章を変更。

(7) 分析結果報告シートについて

- ・強熱減量分析用の報告シートを追加

- ・「担当者毎にシートを分けて報告」という文を追加。1つの報告値に対して報告者は1名。(技能試験では禁止されている事でも共同研究分析ではある程度認める)

(8) 材料評価について (資料なし)

- ・今年の試料はABS 重金属分析。濃度等は検討中 (1000ppm or 100ppm, 4元素)。供給側の都合もあるが、100 ppm で検討。昨年材料評価用試料と同じ成形法。

(9) Zスコア

福本より昨年と同じ方法を採用する旨、説明があった。

(10) その他

- ・開催県として行う作業内容を教えて欲しい。→産総研に一度集まったデータが会長県に送付される。ヒストグラム、集計表等の集計など。

以上